

当別町は、札幌市の隣町。札幌市中心部からは車で約40分に位置しています。主産業は農業で、米、切り花などの農業が盛んです。新千歳空港や石狩湾新港へのアクセスも良いことから、町では企業誘致活動も熱心に行っています。

この当別町の道の駅『北欧の風 道の駅とうべつ』のすぐ隣の敷地に進出されたのが、大阪の加茂川啓明電機株式会社という電機設備や制御システムの会社です。当別町に、子会社かもけいアグリ株式会社を設立し、親会社の制御システムを活かして、年中イチゴの摘み取りができるハウス栽培「to berry farm」の運営に取り組まれています。

1 かもけいアグリ株式会社 佐野社長に伺いました



立地を決めたポイントは？

集客が見込める（道の駅に隣接）・役場の対応（熱意、対応の早さ）

「はじめは他の場所で考えていたのですが、相談していた銀行から当別町を紹介いただいたので、来てみたら、景観が素晴らしかったことと、道の駅の隣接地という場所柄、集客が見込めると思いました。札幌からも近いことと、そして何より役場からの熱心な勧誘もいただきて。役場の皆さんとの熱意と、動きが良かった（対応が早かった）ことも決め手になりました。」



『北欧の風 道の駅当別』の隣接地に建つ かもけいアグリ株式会社のいちごのハウス
(かもけいアグリ(株)のHPより)

ハウス内でインタビューに答える
かもけいアグリ(株)佐野社長



ハウスの特徴を教えてください。



高設栽培・親会社の制御システム技術を活用したハウス

「イチゴは、高設栽培という、大人の腰の高さくらいの棚を組み栽培しています。親会社が電機設備関係の会社ですので、水や栄養剤の供給、調光時間、ハウス内の温度・湿度調整などは、親会社の東北支店で持っている技術を活用して自動制御で管理しています。

現在750m²ほどのハウス3棟を運営していますが、高設式のため、作業の際に体に負担をかけず効率的に作業や摘み取りが出来ることと、自動制御のおかげで、通常は3～5人で十分切り盛り出来ています。

ハウスを訪れた子どもや高齢の方にとっても、楽な姿勢でイチゴが摘み取れて、イチゴ狩りを楽しむことが出来ます。また、イチゴが直接土に触れないで汚れません。」



← ハウス内部1 (高設栽培のイチゴ。摘み取りや手入れ作業は、立ったまま行なうことが出来ます。)



↑ハウス内部2 (受粉はミツバチで行っており、左側の柱に巣箱がかけられています。右奥にあるのが制御システム装置です。)

立地して良かったこと、うれしかったことは？



役場からのサポート・地元農家からの協力

「当別町役場の方には、立地を決めてからも、農地の取得や様々な手続きを迅速に進めていただきましたし、活用できそうな支援制度を調べていただいたり、申請書類の作成のアドバイスをしていただき、大変助かりました。それに、地元農家の方もすごく協力してくれたんです。しおりの様子を見に来てくれて気にかけてくれました。土地の整地など色々助けてもらい、応援してくれたことが本当にうれしかったですね。」

苦労したこと、想定外(?)だったことは？



コロナ禍・地元の気候・手探りの栽培～苗が枯れました

「一番の想定外は、新型コロナウイルスです。これからオープンという矢先のことだったので、開園が遅れたり、オープン後も、お客様が全然来ないこともありましたね。

イチゴの栽培についてですが、私はもともと親会社の社員で、札幌で営業職として働いていました。社員全員農業ははじめて。同じ業態の道外の企業の指導を仰いで取り組みましたが、細かいところまで教えてもらえたわけではなかったため、自分たちでインターネットで調べたりしながら手探りで進めたこともずいぶんありました。また、その土地土地の気候などの特性もあってか、マニュアル通りにやってもうまくいかないこともあります。今でも、毎日試行錯誤しながら取り組んでいます。以前、新たな定植の為に培地洗浄を行った時には、やり方がよくわからなかったため、培地を鹹水*させてしまい、乾くまでに10日もかかって、その間に定植予定の苗が枯れてしまった事などもありました。

実際に立地し、経験してみてはじめてわかることは色々ありましたが、冬の天候もその一つ。1年目は比較的穏やかな冬だったので気になりましたが、翌年がすごい大荒れで…。道路が閉鎖された日もありました。いくら冬でもイチゴの摘み取りができると伝しても、悪天候で道路が閉鎖されてしまうとお客様が来れない。今後の課題というか…。」

(*鹹水(かんすい):水があぶれてしまうこと)



冬のハウス（ハウス周辺はすっかり雪に
覆われていますが…）



←↑→
冬のハウス内部（中では大きなイチゴが
たわわに実っています！イチゴ摘みを
楽しみました！）



今後の課題・展望について



天候への対応・将来はシステムとハウスのパッケージ提案へ

「今後の課題は、夏(高温時)の集客と、冬(天候不順)の集客への対応ですね。

また、将来的には、親会社の制御システム技術等を活かしたこのハウス栽培事業でノウハウを培い、今後、制御システムを活用したハウスの実際のモデルケースとして、システムとハウス経営のパッケージ販売の提案を視野に入れています。」

新規立地を目指している方々へのメッセージ&今後への思い



地元との連携・自ら汗を流してこそ

「地元との関係をいかに作っていくかだと思います。孤立しては出来ない。連携しながらやっていくことが大事だと思っています。農業は自分たちで汗を流してこそ。今、農家の高齢化が各地で起きてきています。若い人たちが関心を持ってもらうような取組をしていかないと、農業をする人が増えていかないので…。

「地域振興」、「地域連携」、「雇用創出」、「いちごの名産地」…、AIやIOTを活用し、当別町から新たな「農業のカタチ」を発信しながら農業の発展に貢献したいと思っています。」



↓期間限定でハウス前に登場するキッチンカーでは、
to berry farmのイチゴたっぷりのデザートを販売



→佐野社長ご夫妻(左)と井上農場長(右)
現在かもけいアグリ株式会社では、観光農園と平行して、
新千歳空港のフルーツショップなど新たな販路の拡大や、ゼリーなど加工品の開発、また、
制御システムを活用したハウス栽培システム事業の展開に取り組んでいます。

2 当別町役場 森経済部長、山田商工観光課長に伺いました

誘致して良かったことを教えてください。



地域や、地元産業との結びつき

「当初、当町の道の駅「北欧の風 道の駅とうべつ」の隣接地を有効利用していただける企業を探していたところ、大阪の加茂川啓明電機株式会社が、イチゴの観光農園を行いたいとのことで、当別町にかもけいアグリ株式会社を立ち上げられました。実は、当別町はかつて「太美(ふとみ)イチゴ」などの名で知られる道内のイチゴの生産地でしたが、高齢化や、露地栽培のため畠での作業がきついことから、作る人が激減し、ほぼ消滅に近い状態だったんです。イチゴでつながるご縁を感じます。これでまた当別のイチゴの復活にもなってくれたら嬉しいです。」

イチゴは、ハウスでの摘み取り体験のほか、地元の菓子店に使用してもらったり、すぐ隣にある道の駅でも販売しています。当別町の150周年記念事業として、道の駅内のカフェで、地元の高校生とコラボしてイチゴを使用したメニューも開発してもらい、期間限定で販売し大好評でした。

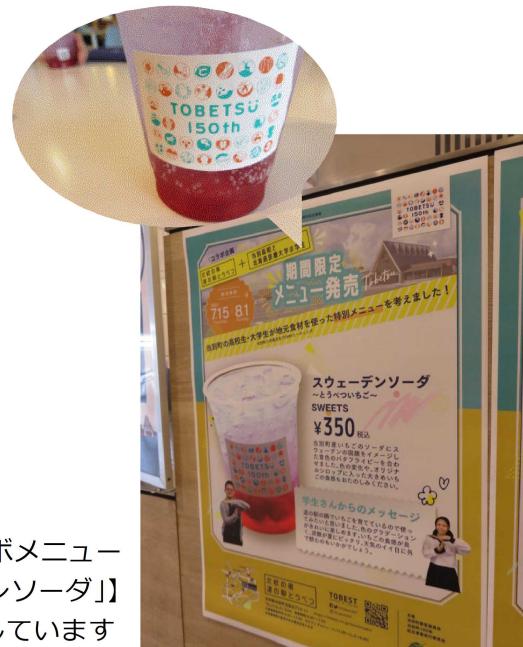
また、観光産業への貢献として、ハウスの制御装置で記録している天候データを提供していただき、道の駅の集客分析にも役立てています。当別町では今まで気象データを取得していなかったんです。道の駅のソフトクリームの売り上げなどは気温が非常に影響するので、参考にさせてもらっています。

このように、地元の学生や町内の産業にも関わってくれるのは、将来町内の雇用増にもつながる可能性でもありますね。

また、イチゴ農園に町内の子どもたちや社会福祉施設の方々などを招いてくれ、皆さんすごく喜んでくれました。地元への心遣いや貢献にも、とても感謝しています。」



【ハウス内に掲示された、イチゴ狩りを体験した子どもたちからのお礼の手紙】



【地元高校生とのコラボメニュー
「スウェーデンソーダ」】
※イベント企画は終了しています

今後に向けてのこと教えてください。



地元農家との協力体制の構築・さらなるハウス増設・新たな誘致も

「イチゴのハウス栽培には、町内の農家さんで関心を持たれている方もおり、今後、ハウス増設に向け、地元農家との協力体制の構築を目指します。イチゴの加工品がふるさと納税の返礼品になったこともあり、今後も安定栽培に向けた体制が整うことを望んでいます。

また、当別町の特産物のひとつに花があります。現在、花き用ハウスに、イチゴのハウス栽培で使用している制御システムを応用し、農業のスマート化を目指し実証実験中なんです。イチゴをきっかけに、お互いがワインワインになる関係を築いて行けたらと思います。かもけいアグリには、常に「地域振興」、「当別町のために…」という前提で事業を展開していただいている、この点について、改めて感謝いたすところですし、本当に良い企業さんに来ていただいたと思っています。

企業誘致活動に関してですが、今回の立地を機に、関西方面などの新規企業をご紹介いただいたこともあります。町と事業者の双方からの発信により新たな誘致につながっていけたらと思っています。以前、北海道開発局が実施した東京での企業誘致セミナーに参加させていただきましたが、このような機会があればまた参加したいです。



当別町では、様々な優遇制度をご用意して企業立地をサポート致します。ご関心のある皆様、ぜひ、ご連絡をお待ちしております。」



当別町役場 森経済部長(左)と山田産業振興課長(右)

当別町の企業誘致パンフレット
(当別町HPからダウンロード可)

取材を終えて。。。

- ・今回お話を伺って、かもけいアグリ株式会社と当別町役場、お互いが相手に感謝し、信頼関係を築かれた中で、課題解決などに協力しあい取り組まれているのが大変印象的でした。この信頼関係があるからこそ、新たなつながりや取組に発展していると感じました。
- ・それぞれの取組にご関心のある方は、下記の連絡先にお問い合わせ願います。
- ・最後に、ご多用のところ調査にご協力いただきましたかもけいアグリ株式会社様及び当別町役場様にこの場をお借りし御礼申し上げます。

(R 4年11月　　※取材期間：R 3年7月～R 4年5月)



企業名	かもけいアグリ株式会社(to berry farm) 親会社:加茂川啓明電機株式会社(大阪府)		
住所	当別町当別太774番1	代表者	代表取締役 佐野 亮
事業概要	いちごハウス栽培(観光農園) 品種名:よつぼし ほか	連絡先	0133-27-7715
設立年	2019年5月	従業員	正社員3人(繁忙期パート1～3人)
形式	立地にあたり現地法人を設立		
設備概要等	<ul style="list-style-type: none">・ビニールハウス(縦15メートル×横50メートル、750m²×3棟)・いちご高設栽培～温度や湿度、液肥、LED照明、ハウス天井の開閉等を管理する環境制御システムを導入。・データは帳票化。将来的にはスマホからの確認可能を目指す。・受粉はミツバチで実施(ハウス内に巣箱を設置)・観光農園は、現在予約制にて営業。時期により人数制限あり。		
利用した支援制度	地域づくり総合交付金(北海道)5,000万円、町の誘致制度(法人税キャッシュバック、土地購入の1/2補助、固定資産税減免5年間)		
誘致窓口	当別町役場経済部	電話	0133-23-3129

★HPアドレス★

- ・かもけいアグリ株式会社 :<https://toberryfarm.jp/>
- ・当別町 :<https://www.town.tobetsu.hokkaido.jp/>



＊＊＊ レポートと併せて、こちらの動画も是非御覧ください！ ＊＊＊

- 1 **かもけいアグリ(株) 佐野社長インタビュー**
<https://youtu.be/6AeJQPkCLs4> (YouTube)

よつぼしいちご実食レポート！
- 2 **当別町役場 森経済部長インタビュー**
<https://youtu.be/5r8t4kWiXWY> (YouTube)

参考～北海道企業立地サポートサイト：<https://invest-all-hokkaido.jp/>
(工場立地などにご関心のある方はこちらもぜひご覧ください。)